

## 20年度下期「なら県民電子会議室」キックオフ大会議事録

1. 日時：平成20年10月4日（土曜日）13：30～17：00
2. 場所：奈良県庁舎 6階 61会議室
3. 出席者；奥家孝彦、荒川隆行、林 正泰、遠藤英樹、金田充史、木村隆志、坪内信行、遊津隆義、赤塚秀一、石川千明、馬詰真一郎、中西久夫、松村賢一、多田充朗、木村新一、城戸振作、渡辺 孝、柳沼壽徳、木谷延高、藤本文明、前川冷治、寺村 聡、

### 4. 議題：

#### 第1部：ミニ講演会

##### (1) テーマ：「奈良県保険医療計画」

～奈良県地域医療対策協議会の取組みについて

講師：奈良県地域医療連携課 杉中泰則課長補佐

##### (2) テーマ：学校支援地域本部について

講師：人権・社会教育課 米田憲司課長補佐

( 桐田健吾社会教育係長 )

#### 第2部：第13回運営委員会

##### (1) 委員長挨拶

##### (2) 20年度上期報告書

コーディネーター報告

事務局報告

県からの報告

##### (3) 20年度下期

テーマについて

コーディネーターの紹介

運営委員会メンバー

##### (4) その他

### 5. 議事の経過の概要

#### 第1部：ミニ講演会

- (1) 奈良県地域医療連携課 杉中泰則課長補佐より、「奈良県保険医療計画」～奈良県地域医療対策協議会の取組みについて、奈良県の現状を示す各種データや各地の改善取組み事例をまじえ、詳細のお話を頂いた。コンビニ受診の課題、医師増員策などについて、活発な質疑応答があった。

- (2) 人権・社会教育課 米田憲司課長補佐より、学校支援地域本部について、ビデオ紹介をまじえ、設置体制や取組み事例をお話頂いた。質疑応答で、既存ボランティア団体との連携促進など、活発な議論があった。

## 第2部：第13回運営委員会

### (1) 委員長挨拶

奥家委員長より、前期の会議室はコーディネーターのご尽力により、非常に内容の濃いものとなった。コーディネーターにお礼を言いたい。県民の意見を聞く手段は、過去から色々な手段があったが、最近のインターネットの普及により、電子会議室は最も有効な手段であると思う。なら県民電子会議室も3年目に入るが、来年度も継続すべきものと思う。との挨拶があった。

### (2) 20年度上期報告書：詳細別紙。

コーディネーター報告：各テーマについて下記報告があった。

#### テーマ1：まほろばからストップ温暖化を考える

前期からの継続テーマで、さらに議論を積み重ね、県議会議論でも関心が高まっている中、市民が作る温暖化防止条例を念頭に他県にない次の11条： 奈良の森林保護と木材（バイオマス）資源の積極的な活用 奈良に潜在する自然エネルギーを自然と調和した形で利用 都市部での温暖化防止対策の対応の強化  
マイカーに関して適正な利用の促進 自転車利用への優遇措置と利用の拡大 公共交通機関とその交通システムを充実、利用者の利便と費用の負担の軽減 温暖化防止の啓蒙と教育の充実を図り、定期的に教育を受ける機会を設ける 企業、行政、学校その他の団体は地球温暖化にかかわる全ての情報を機を逸しない範囲で定期的に公表、公開を 温暖化防止のための推進体制を確立、運用 奈良の生活、文化に根付いた温暖化防止活動の推奨  
適正な環境税の導入とその有効利用。の条例案を提案としてまとめた。また、遷都1300年イベントでの温暖化防止対策実施を求める第付録条もまとめた。

#### テーマ2：世界に開かれた奈良づくり

幅広い議論からはじめ、サブテーマを設定し、更に議論を深めた。積極的で建設的な議論を通じ、具体性のある(1)平城遷都キャラクター(2)奈良のもてなしの心の醸成(3)奈良の交通問題(4)ウェブによる奈良の地域づくり(5)平城遷都1300年を

迎えるまでのその他の問題点を提案としてまとめた。

1300年際は、一通過点として、より良い奈良のまちづくりの継続展開が重要である。それには奈良の歴史、文化、自然等の意味を再考し、それを活かす方策を模索、実行することが重要である。今回の議論で、市民の間でそれが可能であり、また重視されるべきものであることを証立ててくれるものとなった。

#### テーマ3：うまいもののある食の風土づくり

奈良には誇れる多彩な味があるとの思いや奈良の食文化育成の熱い発言が多数寄せられ、明確或いは具体性のある提案を抽出し、  
(1)「奈良の食文化を育てよう」県民キャンペーンの実施  
(2)観光支援策は食文化の活性化で(3)奈良県ブランド、食文化の育成強化(4)奈良ブランド、奈良発の食文化の販売運営や販売の支援強化(5)吉野割り箸の全国普及キャンペーン。  
の提案をまとめた。奈良のうまいものの世間認知はまだ低く、普及のマーケティング展開が必要であり、その為の商品開発、販売拠点づくり、それを担う人材育成が課題である。それを促す今回の提案に沿う国、県の積極的な支援制度が望まれる。

#### テーマ4：奈良に泊まってもらうには

奈良の魅力を再発見し、奈良に泊まってもらう施策を考えるべく、「こんな奈良なら楽しい」というアイデアを募り、「宿泊して頂くには、どうやればよいか」の議論を心がけ、多くの発言を得て、提案として、(1)奈良を楽しめる街に(2)旅行会社に頼らない宿泊施策(3)多様な宿泊プラン(4)泊まって良かった場所の研究(5)自分が欲しいと思える名産品の開発(6)行事、催事の広報宣伝(7)奈良に相応しいのは大型ホテルでは無いことの自覚(8)奈良の販売方法の研究(9)奈良の楽しみ方の再考(10)奈良の観光関連業種はマーケティングを重要視の要をまとめた。議論を通じ、奈良県内には多くの素材があり、これをブラシアップして魅力付けをし、適切な広報をしてゆく正攻法で十二分に宿泊者は増えるのではないかと考える。

#### 事務局報告

事務局より広報活動、アクセス、登録、投稿の状況報告があった。

今期の投稿数は748件、累計で2498件にたった。

電子会議室は広く県民にメッセージを伝達し、県民の意見を集約する有効な手段である。より多くの県民の理解と関心を高め、多くの会議室参加者の呼びかけを継続し、幅広く議論が出来る「なら県民電子

会議室」にしてゆきたい。

#### 県からの報告

##### 取り組み状況

19年度下期「なら県民電子会議室」運用の結果及び提案に関する施策推進状況報告書を電子会議室に掲載した。

##### 20年度下期テーマの検討経過

各部局からテーマ案と運営委員会のアイデアを加えテーマ絞込みを行い、下期は4テーマを実施することとした。

#### (3) 20年度下期

テーマについて：次の4テーマで実施することとする。

テーマ1：奈良の魅力の発信と観光客の誘致

- 奈良の歴史文化を発信し、奈良ファンをつくるために -

テーマ2：受診者の立場から医療資源を考える

- 限られた医療資源を守るために何をなすべきか -

テーマ3：地域ぐるみで学校を支援しよう

- 学校支援地域本部の取り組みを活かして -

テーマ4：平城遷都1300年祭を成功させよう

- 平城遷都1300年祭を機に「もてなし」を考える -

コーディネーターの紹介

今期各テーマのコーディネーターの紹介があった。

運営委員会メンバーの紹介

今期の運営委員会の体制の紹介があった。

以上。